

# アクションプログラムの策定について

スノーリゾート地域における主な現状・課題（スノーリゾート地域の活性化に向けた検討会 最終報告より）

- 日本人のスノースポーツ人口の減少(1,800万人(1998年)⇒740万人(2015年))
- 2018年平昌冬季五輪、2022年北京冬季五輪により、今後アジア諸国を中心にスキー人口の増加と日本のスキー場への来訪増加が期待。誘客への対応が重要。
- 索道等の施設の安全管理、コースの安全管理は重要だが、特に施設の老朽化対応等、安全管理投資の負担感が大きい。
- 訪日外国人を中心にバックカントリースキーの需要の高まり。
- 通年での雇用、年間を通した事業継続性という点から、特にグリーンシーズンの誘客が重要。
- スキー場の経営がいきづまり、廃業に伴う原状回復が出来ず、休止扱いとして廃業できないスキー場がありうる一方で、スキー場の廃業は地域経済にとって死活的な問題。

## 課題の整理

### 国内外からのスノーリゾートへの誘客に関する課題

・日本人のスノースポーツ人口の減少

・訪日外国人の誘客への対応

### スキー場の経営に関する課題

・索道等の施設の老朽化

・スキー場内外の安全確保

・年間を通した事業継続

・スキー場の経営悪化に伴う事業の再生又は廃業・撤退

## スノーリゾート地域の活性化に向けたアクションプログラム2017 骨子(案)

- 小中学生を対象としたスノースポーツの普及
- 幅広い年齢層の誘客に向けたスノーアクティビティの充実等の仕組みづくり
- 国籍や年齢層に応じたニーズ及び新たなマーケットの把握
- 各地の地域文化を活かした滞在コンテンツの充実
- 外国人インストラクターやスキー観光(ツアー)ガイド等の充実
- 日本のスノーリゾートにおける魅力の発信
- 索道施設の更新事例を収集し、参考とすべき事項の横展開に向けた検討
- 関係機関の連絡体制や情報提供方法の確立に向けた事例収集、課題の抽出及び課題解決に向けた対策等についての検討
- バックカントリースキーに対する注意喚起のためのルールの展開に向けた検討
- グリーンシーズンにおける森林レクリエーションや索道の利活用等の事例の収集、滞在コンテンツの充実及び雇用の確保に向けた検討
- スキー場の再生、廃業・撤退の事例の収集、原状回復に必要な条件の整理、課題抽出及び課題解決に向けた検討

モデル事業の実施、成果検証、横展開

課題や好事例のとりまとめ、共有